

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
経済学 Economics		1年	前期	月曜日・5時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択 (授業中に指示します)		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
ビジネス実務総論Ⅰ・Ⅱ、ビジネスイノベーション論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
授業中に指示します				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
長江 庸泰	本館2F (研究室4)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
実務で役立つ、マクロ&ミクロ経済学・金融・財政・国際経済の“実習”を通して、世界の出来事をより深く洞察できる能力と同時に、人生を生き抜く“ファイナンス力”を身につけた人材を育成する。				
授業の到達目標				
①「国際経済から見た国家」を理解出来るようにする。 ②「経済活動」を理解出来るようにする。 ③「ミクロ経済学」を理解出来るようにする。 ④「マクロ経済学」を理解出来るようにする。 ⑤「金融・財政と国際経済」を理解出来るようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、経済学に精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果				
①「国際経済から見た国家」を理解し、第三者に説明できることができる。 ②「経済活動」を理解し、第三者に説明できる。 ③「ミクロ経済学」を理解し、第三者に説明することができる。 ④「マクロ経済学」を理解し、第三者に説明することができる。 ⑤「金融・財政と国際経済」を理解し、第三者に説明することができる。 ⑥1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)			
第2回目	国際経済から見た国家 (①日本<ブラザ合意、バブル経済、不毛の30年>、②アメリカ<ITバブル、雇用と財政、リーマン・クラッシュ>、③アジア<通貨危機>、④100年に一度の経済危機)			
第3回目	国際経済から見た国家 (①EUの誕生、②中国、③BRICs)			
第4回目	経済活動 (①経済学とは、②経済学に学ぶ自己責任の時代、③経済学の領域)			
第5回目	経済活動 (①歴史に学ぶ経済学、②経済学の概念、③経済システム)			
第6回目	ミクロ経済学 (①需要曲線、需要の変化、需要の価格弾力性、②供給曲線、供給の変化、供給の価格弾力性) / プレゼンテーション&ディスカッション①			

第7回目	ミクロ経済学 (①生産理論、②経済モデル、③市場構造、④企業戦略、⑤逆選択) / プレゼンテーション&ディスカッション②		
第8回目	マクロ経済学 (①GDP、付加価値、三面等価、②限界消費性向、投資、③輸出入) / プレゼンテーション&ディスカッション③		
第9回目	マクロ経済学 (①政府支出、名目・実績GDP、②経済成長率、インフレーション、デフレーション、スタグフレーション、③失業) / プレゼンテーション&ディスカッション④		
第10回目	金融・財政 (①金融とは、中央銀行、金融政策、金融ビックバン、②M&A、債券、③ヘッジファンド、信用取引、証券化) / プレゼンテーション&ディスカッション⑤		
第11回目	金融・財政 (①財政とは、財政政策、②乗数効果、③年金) / プレゼンテーション&ディスカッション⑥		
第12回目	国際経済 (①外国為替市場、②変動為替相場) / プレゼンテーション&ディスカッション⑦		
第13回目	国際経済 (①一物一価、②購買力平価) / プレゼンテーション&ディスカッション⑧		
第14回目	国際経済 (①為替差損・差益、②テロリズムと経済) / 国際経済 (①比較優位、②産業の空洞化、③国際収支)		
第15回目	まとめと定期試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		10%	以下の3点から評価する：①ノートを取り、創意工夫してまとめ上げられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
レポート		30%	以下の3点から評価する：①創意工夫してまとめ上げられている、②自分の意見を論理的に述べている、③課題の本質を理解し、まとめられている。レポート最新課題は、月1回計4回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		40%	グループワークによるプレゼンテーション力を試験し、以下の3点から評価する：①内容が創意工夫されてまとめ上げられている、②グループの意見が論理的に述べられている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
発表内容 (態度含む)		20%	レポート発表は、以下の3点から評価する：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他			上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書			
長江庸泰作成の“デジタルテキスト[経済学 2013年度版]”を活用する。			
履修上の心得・ルール			
本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する。「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法」を常に心掛けましょう。			